



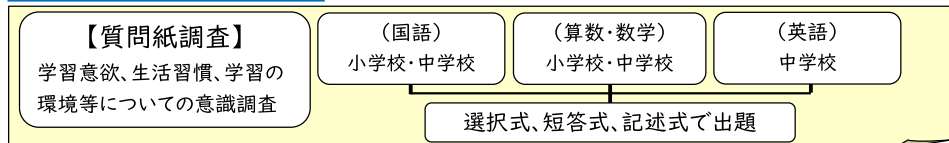
牧之原の子どもたちの学力・学習の様子

牧之原市教育委員会、牧之原市菊川市学校組合教育委員会

☆全国学力・学習状況調査の目的☆

子どもたちの「学力」や「学習状況」を把握し、今後の授業や教育活動の改善に役立てるために実施されるものです。

☆実施した調査の内容☆



☆牧之原市調査の状況と各教科の伸びている力・伸ばしていきたい力☆

小学校	国語(14問)	算数(16問)	
平均正答数の全国結果との比較	やや低い	やや低い	
中学校	国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
平均正答数の全国結果との比較	ほぼ同じ	ほぼ同じ	ほぼ同じ

※「ほぼ同じ」は、全国平均正答数との差が0.5問以内。「やや低い」は1問以内のことを示します。

国語科 『国語科は、言葉を使って理解をし、表現する言語能力を育成する教科』

【伸びている力】

- 会話の内容や要旨、話の中心となる言葉や文を捉える「話す・聞く力」がついている【小・中学校】
- 自分の考えが伝わるように文章を構成し、根拠を明らかにして「書く力」が向上している。【中学校】

【伸ばしていきたい力】

- ☆出題形式にかかわらず無回答の割合が高いため、自分なりの解答を粘り強く考え抜く力【小学校】
- ☆複数の情報を比較や関係付けたり、語句と語句との関係を理解したりして、考えをまとめる力【小・中学校】

算数・数学 『算数科は論理的(順序立てて)に説明し、考えをより豊かにすることを育成する教科』 『数学科は数学的な活動の楽しさや数学のよさを実感し、新たな発想を育成する教科』

【伸びている力】

- 昨年度に続き基礎的な計算方法や数学的に処理をする力(知識や技能の定着ができています)【小・中学校】
- 立式の意味を読み取り、事柄の成り立つ理由を説明する力【中学校】

【伸ばしていきたい力】

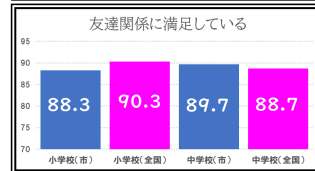
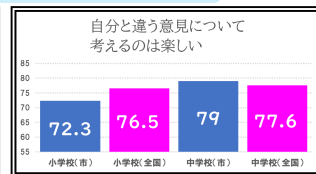
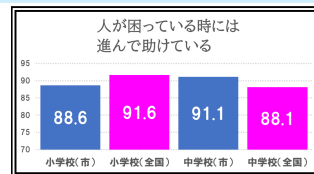
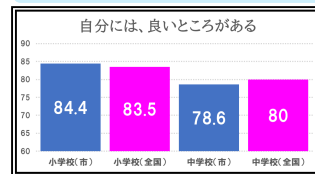
- ☆問題解決の過程や結果が成り立つことの原因を言葉や数を用いて説明をする力【小学校】
- ☆複数の資料から、目的に合わせた必要な情報を根拠にして、論理的に考察する力【小・中学校】

授業改善のポイント(一例) キーワードは「主体的・対話的で深い学び」

- ⇒主体的に学習するために、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、児童生徒自身が「何をどのように学ぶのか」「自分の考えがどのように変容したのか」を自覚できる場面の設定を大切にしています。
- ⇒学びを深めていくためには、「児童生徒が考える場面」「他者と考えを議論し合う場面」「教師が教える場面」を、授業を行う児童生徒の思考に合わせて組み立てた授業を展開しています。

■質問紙調査にみる牧之原の子どもたちのよさと課題

☆自分を伸ばし、他者を信頼し、優しさを広げています。



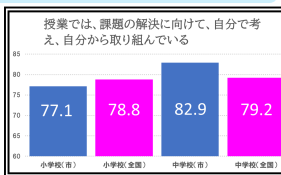
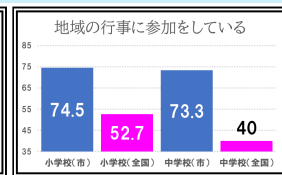
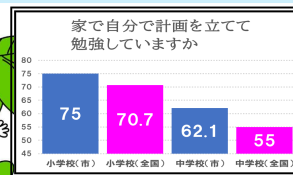
学校は、授業や学校生活を通して、自己や集団の成長を促す“自治力”を育む活動を意図的に設定しています。児童生徒が自己決定や自己選択、合意形成を図る中で、自己肯定感を高められるように支援をしています。
また、児童生徒が、決められたルールを守るだけでなく、みんながよりよい学校生活となるために自分たちで必要なことを考え、実行できるように教職員が支援をしています。

【保護者や地域の方へのお願い】

- ・“じっくり”話を聴こう。話をしよう。 ・“たくさん”よい行動を見つけよう。認めよう。
- ・「やってみよう」という思いを応援しよう。 ・「やってみよう」と背中を押してあげよう。
- ・「どうして」という疑問を大事にしよう。 ・“ゆっくり”自分で解決できるように待ってあげよう。

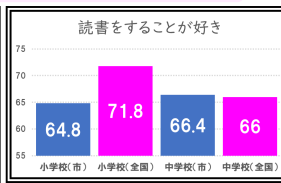
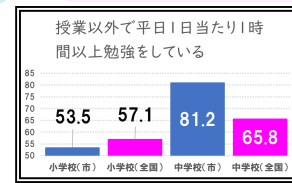
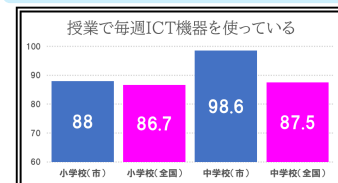
子どもたちが様々なことに挑戦をし、前向きになれる温かい言葉掛けをお願いします。

◎牧之原の子どもたちは、地域から学び自分の将来を考えています



牧之原市では、キャリア教育を『起郷家(郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす)教育』と名付け、9年間の系統立てた体験重視の探究型プログラムを通して資質・能力を育てています。小学校5年生で「アースランチ創作」、小学校6年生から中学校1年生で「命と防災」、中学校1年後半から3年生で「仕事価値創造」をテーマにした将来を考えるプログラムを実施しています。今後も、学びを接続するプログラムがさらによりよいものになるように研究を行い、児童生徒が課題を追究し、「次代を切り拓く力」の育成を教育活動全体で取り組んでいきます。

◎パソコンで学びが充実しています



ICTのよさは、視覚的な支援やデータの共有、プレゼンテーションなどがあります。より効果的なICTの使い方を教員が研究するとともに、児童生徒がICTのよさを理解し、自分の課題追究のために様々な学習方法を選択できるように取り組んでいきます。

ICTにより、学習する方法が多様になっています。また、メディアにより多くの情報が入ってくる社会です。しかし、ノートで自分の考えをまとめたり、読書をしたり、新聞を読んだりするアナログも大切な学びとなります。たくさんの「言葉」を知り、「豊かな表現力」を身に付けることが、考える力や人間関係をつくることにもつながっていきます。

